

Knowledge of
The underground Network.
アンダーグラウンド・ネットワーク

本編・資料

発行 空事屋

<http://soragotoya.wordpress.com>

プロジェクト
シン・アンダーグラウンドネットワーク
デュプリケーション
[解説 / 資料集 決定版]

2025年9月15日 最終編集

序

この度は、この書を手に取っていただき、
誠にありがとうございます。

本書は、著者が三年ほど前執筆しました

「ザ・アンダーグラウンド・ネットワーク」
に関する豆知識を、脳の記憶を頼り*1に
断片的ですが、そのまま掲載するものであります。

*1 制作メモ等に使用していたデバイスが使用不可能

「こんな黒歴史小説が存在していたのか」
と感じていただけすると幸いです。

制作した私でも、読もうとするだけで尋麻疹が
出るほどです。(笑)

決していい気持ちになれるような書では
ありませんが、是非くおねがいします。
思います。

ザ・アンダーグラウンド・ネットワーク本文

読んだことのない方向けに、本文を掲載します。

2020年大学放課後

はあ...今日も学校の中で何もない1日だったなあ....

友達早く誘ってくれないかなあ...

「よお！一緒に遊ぼうぜ！」

今日も変わらない友達だ。

「おう！何で遊ぶんだ？」

「今日はスペシャルな遊びだよ！「ダークネット」を探索するんだよ！」

脳内で？が思い浮かんだ。

「ダークネットって？」

「自分でも知らないけど、ダークネットでは、いろいろな情報が隠されているらしいんだ。」

「へえ。自分でも知らんけどやってみるか。」

「お前は天才だから大丈夫だろ！」

と話しているうちに家に着く。

「今日もお前ん家に泊まってついていい？」

「いいよ！」

「じゃあパソコン持ってきてくれ。」

「おう！」

自分はGMAX 2660 CORという世界最強のCPUを持っているから、ウェブにアクセスするだけで爆速だ。

「持ってきたぞー」

「ありがとな！じゃあDARK NET Expressをインストールして！

そしたらダークネットにアクセスすることができるぞ！」

「いいよー」数秒後...

「やはりお前のパソコン爆速だなW」

「ダークネットエクスプレスホーム...「ダークネット、最恐サイト」で検索っと！」

「おい！勝手に検索すんなよ！！！」

「仕方ねえから俺が対処してやるよ。ダークネットリスト.com...うわ！聞いたらいろんなサイト貼ってある...このサイト開いてみるか。」

「押しちゃえ！もしやばいことになつたら俺がついてる！」

が...

「Now loading？」

「うわ！このサイトは..!!！」

「よお。なんで友達の言うことにここまで正直になってここまでアクセスしてしまうんだ？

お前らも知ってるだろう。俺の名前は....美也 学。」

「なんでお前はここまでするのだ？

友達に命令されたらすぐに行動する派なのか？お前はロボット同然だな。」

「ここまで言わなくても..」

「なんだ？お前がこの奴に命令したくせになぜそう言う？教えてやろう。

俺は、世界中のすべての情報を知っている。お前の、学校の行動などな。」

「なんでアングラネットにそのような情報を流す！そんな情報必要か？」

「もう一つ教えてやろう。この世は需要と供給で生きている。そのようなものの需要が在れば供給する。それだけさ。さらばだ」

「ええ！？パソコンの電源が切れた！」

「なんだよー。もっと面白いことしようと思ったのに。」

The Underground Network 1 終わり。

次のページが最終話です。
見てて不愉快に感じた方はページを
飛ばしてください。

ザ・アンダーグラウンド・ネットワーク2 本文

不愉快に感じた方は、ページを再度飛ばすことをお勧めします。

「なんだよー。もっと面白いことしようと思ったのに。」

「何したかったん？」

「うん。ある程度の精神をブレイクさせることだよ、お楽しみってやつ」

「わかった。じゃあ協力するわ。仮想ネットワークを使ってアクセスするか。」

「/expect:mact[hanter-vpm]・・・_jpnvpn.1000/china\ うん。これで中国に接続できたよ。」

「流石零！」

「うん。miyamanabvideochat.gbacsと。」

「つながった！」

「またお前か。お前は何がしたいんだ？供給を邪魔して何が楽しい。」

「なんでお前が供給するんだ。そうしたらお前が犠牲になるだろ。」

「お前に一つカミングアウトしてやる。お前のとなりに友達がいるだろ。」

「そいつに俺は命令されているんだ。よく今まで気づかなかつたな。」

「あいつは、中国国籍だ。日本語を必死に勉強して今ここに立っている。」

「彼の名は....リ・チャン。」

「おいそれを言うな」

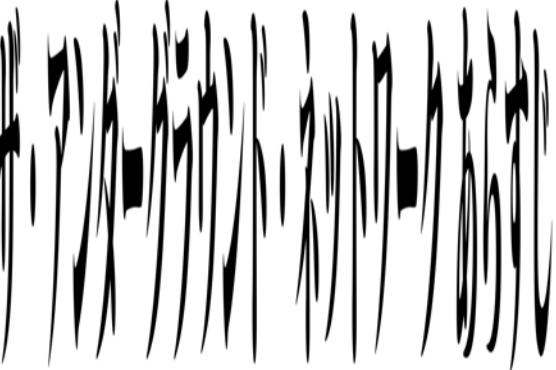
「俺はもう命令されるのはやめた。お前は一人で悪側になれ。」

「あシャットダウンした」

「絶交な。お前がそんな人だと思わなかつたわ」

「ばれてしまったか。こうなりや、戦争だ。」

「逃げろ...!!!」 The Under Ground Network 2 終わり。



「俺の名前は、琴水 霽（ことのみず しづく）。
友達があんまり居ない陰キャだ。
いつも、俺は教室の隅っこで本を読んでいる。
それが教室の中の唯一の娯楽だからだ。
放課後に友達が遊びに誘ってくるのを、
本を読みながら待っている。
今日も放課後に遊びに誘ってきた。
今日の友達の一言により、
自分の人生が覆されるのだった。」

キャラクター・1 琴水 霽

自己肯定感が低く、慎重に決めることができない大学生。
大学生とは思えないほどの精神年齢、
かつ、稚拙な言葉遣いが特徴。
性別不詳。

キャラクター・2 リ・チャン

琴水 霽の友達的ポジション。
中国国籍だが、なぜか日本に滞在。
キチガイな琴水を、ダークウェブに誘い出した張本人。
性別不詳。

キャラクター・3 美也 学

ダークウェブの住人。
なぜだかり・チャンを知っている。
名前的におそらく日本国籍。
性別不詳。

1. 命名方法

ケース1. 琴水 霽

霽は私のハンドルネームから。

琴水部分は、”琴葉姉妹”的琴、”霽”的水。琴水。

ケース2. リ・チャン

中国人にあう名前をなんとなく頭で考えて
見た結果、こうなった。つまり適當。

ケース3. 美也 学

インターネットで苗字一覧表のようなものを
検索し、一番小説にいなさそうなものをチョイス。

”学”は、学習に秀でていそう という勝手な思い込みから。

2. 没案：マンガ版製作

ザ・アンダーグラウンド・ネットワークの
マンガ版を製作するといった愚行を重ねようとした
という事実があります。未遂に終わりましたが。
本の表紙も制作していましたが、
企画破棄の際に捨て去ってしまいました。

(破棄:2025年1月)

3. 没案：アニメ版製作

アニメーション自主制作の一環として、
アニメ版を製作しようともしていました。
キャラクターデザイン、
新規キャラクター案は 企画破棄の際に
抹消されました。

(破棄:2025年1月)

4. なぜ、THE UNDERGROUND NETWORKを作ったのか？

当時いたコミュニティーの人間が、
小説を書いていたことに憧れたのか
黒歴史になることを覚悟しながら
執筆しました。

ほとんど気の迷いのようなものです。
そのため、まったく脳のリソースを割いていない
本作は、支離滅裂な言動などが多く多めなのです。

5. なぜ、第2話が最終話なのか？

投稿していたPixivのアカウントにログイン
できなくなつたのが大きな要因です。
全然アイデアが浮かばなくなつたという
のもありますけどね。

続編や第参話の制作予定はありません。

6. なぜ THE UNDERGROUND NETWORK は THE UNDERGROUND NETWORK なのか？

何故ここまで支離滅裂な小説になったのかというと、

「命名してから内容を決めた」。

「この名前にしてしまったからには

ダークウェブにかかる小説にしなければ」

といった謎の固定観念にとらわれ、

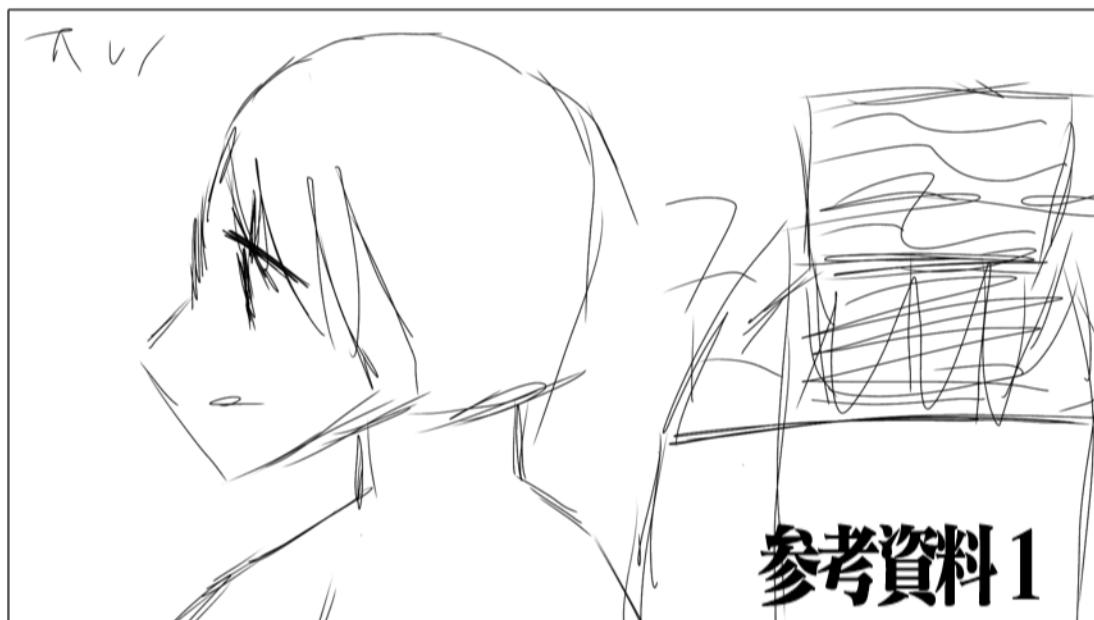
国語力がいまだ未発達の時にとても難しい

小説を書く羽目になったのです。

得意な内容であれば、

恐らくここまで気持ちの悪い小説にはならなかつた

。



第参話は、下書き段階ではサイバー大戦のような話になっていました。
(完全に脳内記憶)

サイバー世界での鬼ごっこのような・・・
なんだかそういう話だったと記憶しています。
リ・チャンに追いつかれないようにサイバー世界で逃げ続ける。
今考えると面白くとも何ともないですが、
これが当時の私の精一杯だったのでしょう。

参考資料1・・・旧スマートフォンにからうじて残っていた、
頓挫したアニメ版の1部下書き。
アニメ版は 第参話を描いていました。

8.

別作

この小説の別世界線をテーマとした小説なんかもありました。
(執筆したのはTHE UNDERGROUND NETWORKよりも前)
詳しくは解説しませんが、似通った部分もあるかと思います。
(読んではない)



参考

以上

発行
空事屋

編集

akizawa.chiine@gmail.com

無断転載可

Knowledge of
The underground network.
記 錄
2025/09/15 編